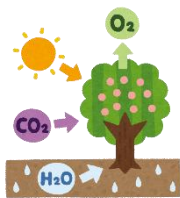


セカンドスクールに向けて その 11 「ゼロカーボンシティの巻」

2019 年 12 月、気候変動の影響を直感した地元の高校生らの活動を受け、白馬村は「**気候非常事態宣言**」を宣言しました。これは、地球環境が変化しているなかにあっても白馬村の類いまれな自然環境を残し続けたいという切実な思いから出されたものでした。



白馬村では 2020 年の 2 月、これに続き、「**ゼロカーボンシティ宣言**」を採択しました。これは、前年の気候非常事態宣言に対する取組をより具体化することを目指したもので、2022 年 1 月にはゼロカーボンに向けた具体的な目標として「**白馬村ゼロカーボンビジョン**」が策定されています。さらに、ゼロカーボンと生物多様性の回復の実現に向かう道筋を描き、具体的な取組の組成と推進を促すことを目的に「白馬村の持続可能な未来に向けた環境分野のアクションプラン」と銘打たれた**ロードマップ**が策定されました。そこでは、気温上昇抑制や CO2 削減目標、そこから導かれる生物多様性の回復など、環境を取り巻く世界や日本の情勢を見据えた上で、4 つの重点領域を設定し、白馬村独自の目標を設定しています。すなわち、



1. 宿泊施設・家庭における省エネ推進
 2. 温室効果ガスを排出しない移動・運輸・交通
 3. 白馬の自然環境と調和したエネルギー循環
 4. 白馬の自然環境を活かした自然生態系・生物多様性の回復
- というものです。

文言だけを見るとなにより難しそうに感じる目標ですが、実際はどのようなものかという、ロードマップに示された住民向けの「日常生活において協力して欲しいこと」という内容を見ると…。

- 空調の設定温度を適切に管理し、不要時の使用を控える。 無駄な電気は消す。
- アサガオ、ハチマ、ゴーヤ等、緑のカーテン効果のある植物を育てる。
- 雨水貯留施設・雨水タンクを利用した打ち水・散水を実践する。
- ごみの削減、再利用、再資源化を促進する。 残さず食べ、食品ロスの出ない料理や食事をする。
- マイバッグ・マイボトル・マイ箸の利用等、ごみを発生させない消費行動をする。
- 生ごみを出す際は水切りを行うことで、運搬や焼却に要するエネルギーを削減する。
- 自動水栓や蛇口に節水シャワーヘッドを付けるなど、節水を実施する。
- 環境に配慮した洗剤・石鹸や、環境に配慮した清掃用品を使用する。
- 排水管、雨水管、または天然水源に有害物質を流さない 環境中にごみを投棄しない。
- 地域で行われる行事や環境学習・環境保全活動等に積極的に参加・協力する。
- ごみ拾いや環境ワークショップなど近隣の美化や緑化に努める。

このように、日常生活をする上で注意すべきことが示されているのですが、どれも比較的簡単に取り組める内容で、あえて難しさを挙げれば、普段から環境に対する意識を常に忘れないようにするといったことになるのかもしれませんが。

セカンドスクールでは民泊先でお世話になるわけですが、短期の宿泊期間であっても、このような白馬村の取組、SDGs を意識して生活するとともに、東京に戻ってもこのような環境に対する意識を忘れることなく過ごすということが、これからの時代を生きていく必須の課題になるのではないかと思います。

